

惠州小西湖畔朝雲墓

惠州小西湖畔の朝雲の墓

岳堂 石川忠久

平成六年春、東坡晩年の流謫の地惠州(広東省)を訪れた。折から春分の後のうらかな日。朝、旅館を出て湖まで散歩する。町の娘たちについて湖辺の路を行くと、かの蘇東坡の愛妾朝雲の墓へ出た。朝雲はわずか十二歳の時、東坡の侍女として仕え、二十一歳で男の子 遯を産むが、その子は翌年死んでしまう。東坡は夫人に二度先立たれ、妻君運が悪かったのを、よく朝雲がかしづいてくれたのである。朝雲が惠州の配所で死んだとき、東坡はその一生を愛情のこもった筆致で書き記している。

古塔長堤水中島

古塔 長堤 水中の島

羊蹄花映小西湖

羊蹄花は映ようていかず 小西湖に

芳春尋到朝雲墓

芳春尋ね到る朝雲の墓

追憶当年侍大蘇

追憶す 当年 大蘇に侍せしを



羊蹄花

古い塔、長い堤、水中の島、小西湖に。羊蹄花が映じてて美しい。春の日、朝雲の墓にお参りして。朝雲が蘇東坡に仕えていた頃のことをしのぶ。蘇東坡一〇〇選石川忠久より抄出



朝雲の墓

蘇文忠公朝雲墓誌銘 東坡先生侍妾曰朝雲，字子霞，姓王氏，錢塘人。敏而好義，事先生二十有三年，忠敬若一。紹聖三年七月壬辰，卒於惠州，年三十四。八月庚申，葬之豐湖之上棲禪山寺之東南。生子遁，未期而夭。蓋常從比丘尼義沖學佛法，亦粗識大意。且死，誦《金剛經》四句偈以絕。銘曰

朝雲墓誌銘

